

平成 29 年（2017 年）4 月 11 日

SINET5 開発担当者と NII 副所長の安達淳が科学技術賞を受賞**平成 29 年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰**

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所（NII、所長：喜連川 優、東京都千代田区）アーキテクチャ科学研究系教授 漆谷 重雄、同研究系准教授 阿部 俊二、研究戦略室 リサーチアドミニストレーター・特任教授 山田 茂樹、学術基盤推進部学術基盤課特任教授 中村 素典、同研究系教授 合田 憲人の 5 名が本日 4 月 11 日に文部科学省が発表した「平成 29 年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰」で「科学技術賞」（開発部門）を、コンテンツ科学研究系教授・副所長の安達 淳が同表彰の「科学技術賞」（科学技術振興部門）を、それぞれ受賞しました。

受賞に関する情報は以下の通りです（年齢は本年 4 月 1 日現在）。

【科学技術賞（開発部門）】

氏 名： 漆谷 重雄（うるしだに・しげお）
年 齢： 57
職 名： 国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系 教授

氏 名： 阿部 俊二（あべ・しゅんじ）
年 齢： 59
職 名： 国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系 准教授

氏 名： 山田 茂樹（やまだ・しげき）
年 齢： 67
職 名： 国立情報学研究所研究戦略室 リサーチアドミニストレーター・特任教授

氏 名： 中村 素典（なかむら・もとのり）
年 齢： 50 *
職 名： 国立情報学研究所学術基盤推進部学術基盤課 特任教授

氏 名： 合田 憲人（あいだ・けんと）
年 齢： 49
職 名： 国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系 教授

業績名： 高性能で高信頼なマルチサービス基盤 SINET5 の開発

業績概要： 学術情報ネットワーク (SINET) は幅広い先端科学分野の活動を支えるものであるが、従来の技術では学術系特有の高性能性、多様性、即時性、高信頼性、経済性の実現が不可能であった。

本開発では、多層のネットワークレイヤ、多層の仮想回線、複数の仮想ルータ、多様な仮想閉域環境など、仮想化技術を複合的に連携させ、かつ、ネットワーク資源を一元的に制御・管理する新しいネットワークアーキテクチャを実現した。

本開発により、低位レイヤでの経路最適化による普遍的な通信性能の向上、同一物理ネットワーク上での多様なネットワークサービスの経済的実装、ユーザによるオンデマンドでのネットワーク設定や帯域確保、多様なユーザ資源等のセキュアな共有、多層的な故障検出・経路迂回による信頼性・安定性の向上、などの技術的成果をもたらした。

本成果は、全国的な通信性能の向上と多様で機動的なサービスの提供により、全研究者の研究効率の大幅な向上に寄与するとともに、熊本地震においても九州全域で多様な通信サービスを継続するなど安定した通信環境の提供に寄与している。

コメント： 「この度は、『科学技術賞（開発部門）』という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。今回の受賞では、新しい学術情報ネットワーク (SINET5) を実現するためのネットワークアーキテクチャと関連技術の研究開発に関して過分なご評価を頂きましたが、その実用化にあたっては弊所の SINET チームならびに多数の通信事業者やシステムベンダーの方々からも多大なご支援・ご協力を頂きました。また、大学や研究機関等の利用者の皆様から様々なご要望や温かい励ましなどを頂き、そのことが新しいネットワーク技術の研究開発に挑戦するきっかけとなりました。今回の受賞に導いて頂いた皆様方に心より深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みとして、SINET がより快適で使いやすい学術情報基盤として発展できるよう、身を粉にして研究開発に臨んでいく所存です。」 (筆頭者・漆谷重雄)

* 昭和 41 年 (1966 年) 4 月 6 日生まれ

【科学技術賞（科学技術振興部門）】

氏 名： 安達 淳（あだち・じゅん）

年 齢： 64

職 名： 国立情報学研究所 教授・副所長

業 績 名： 学術情報の電子化とオンライン流通のシステム構築技術の振興

業績概要： 1990年代から情報技術の進展を受けて文書の電子化が広まってきた。インターネットの普及は、学術論文の電子化を促し、電子ジャーナルとして新たな流通をめざすシステムを実現する動きが出てきた。

本活動は、我が国の学会等の学術論文を電子化しインターネット上で流通するオンライン・システムの設計とサービスの実現を行ったものである。紙媒体での出版から電子化に移行しやすいサービスとし、メタデータの整備も併せて行い、学会にとって参加しやすく、研究者や学生等の利用者が検索しやすい設計とした。また、引用文献情報の整備では、文書同定を行うための人工知能技術を適用したソフトウェアを開発し、効率的な運用を可能とした。

本活動により、我が国の学会が電子ジャーナルに向かう世界の潮流に遅れることなく的確に対応できる環境を欧米と時期を同じくして構築した結果、現在 400 以上の学会がこのサービスに参加、電子化された雑誌タイトル数は 11 万 6 千誌におよび、大学等の紀要論文も含めて 380 万論文が公開されるに至っており、利用者がインターネットを活用して研究する際になくてはならないサービスとして学術情報の電子化と流通に寄与している。

コメント： 「このように栄誉ある賞をいただけまして、とてもうれしく思います。この活動は私一人ではできなかったものではなく、多くの方々の長年に渡るご尽力により実現されたものです。まだ PDF も XML もない時代から、日本の学術情報の電子化と流通に関わることができ、大学における教育研究に少しでもお役に立てたことは大変光栄に思います。また、プロジェクト当初に論文データを提供していただいた情報処理学会、電子情報通信学会および電気学会に感謝の意を表します。何よりも、このサービスの利用や普及に際し、様々なご支援やご協力をいただいた大学図書館の方々には深く感謝いたし

ます。その後の電子ジャーナルの進展には目覚ましいものがあり、振り返りますと、十分にやれなかったことも多々あります。奇しくも NII の電子図書館事業(NII-ELS) 終了と時を同じくしてこの賞をいただくことには、誠に感慨深いものがあります。」

以上

〈メディアの皆様からのお問い合わせ先〉

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所

総務部企画課 広報チーム

TEL:03-4212-2164 E-mail : media@nii.ac.jp